

デザイン支援のためのガイドライン活用手法

阿保友二郎*)、薬師寺千尋*)、園田 卓*)、秋田 実*)

1. はじめに

高齢者及び障害のある人々のニーズに対応した規格作成配慮指針として JIS では Z8071 が 2003 年に制定された。この規格は、主に規格の作成や改訂に携わる人々を対象にしているが、製造者、設計者、サービス業及び教育者といった人々に対しても有用な情報の提供源となっている。さらに、この基本規格と個別製品の規格作成の橋渡しに、グループ規格（セクターガイド）が設けられているが、デザイン支援の場において、これらの規格を情報源として活用するにあたり、各項目の照会が煩雑になっている。そこで、これらの規格のデータベース化を目指す上で必要となる検索分類項目の設定について検討を行った。

2. 分類方法

製品対象として消費生活用製品及び住宅設備機器に設定し、関連するグループ規格として次の 4 つの JIS 規格である高齢者・障害者配慮設計指針から項目を引用抽出した。

高齢者・障害者配慮設計指針 - 消費生活製品の凸記号表示 (S 0011:2000)

高齢者・障害者配慮設計指針 - 消費生活製品の操作性 (S 0012:2000)

高齢者・障害者配慮設計指針 - 包装・容器 (S 0021:2000)

高齢者・障害者配慮設計指針 - 住宅設備機器 (S 0024:2004)

次に、引用抽出した項目から要素ごとの分類を試みた。分類にあたっては、企業者へのデザイン相談対応などを想定し、「どのような場所で使われる製品」の「どのような要素」について、「何を配慮しなくてはならないか」という結果の部分と、その結果から規格を照会できるようにしておく必要がある。そこで、分類を行った要素単位は、各規格における留意事項、配慮事項、要求事項などの項目に準じて行った。

3. 分類結果

各規格から抽出した「何を配慮しなくてはならないか」という最終的な結論となる項目は、
：約 9 項目、
：約 70 項目、
：約 17 項目、
：約 168 項目となった。これらの内容を吟味し、絞り込みのための要素をキーワードとして、「寸法」、「形状」、「機構」、「材質」、「識別」の 5 つに選定した。このキーワードを各項目に重複を許可した上でインデックス付けをした。このキーワードにより検索することによって、例えば「車いす使用における屋内住宅設備機器についての配慮点」についてデザイン支援の必要が生じた場合に、「車いす」という単語のみで全文検索かけた結果よりも、有用な情報を広範に引き出すことができた。他の分類をかけ合わせることによって、デザイン支援の資料作成のために、高齢者・障害者配慮設計指針の規格情報の引き出し～再加工が簡易にできる見込みを得ることができた。

4. まとめ

今回、企業者へのデザイン支援に活用できる高齢者・障害者配慮設計指針のデータベース化を目指す上での基本的な要素分類を行った。しかし、他のグループ規格である高齢者・障害者配慮設計指針についても同様のキーワード設定による活用が可能かどうかの検証が課題である。今後は、上位の規格である高齢者及び障害のある人々のニーズに対応した規格作成配慮指針 (Z8071) における心身の機能と要素のマトリックスとの整合などについて検討していきたい。

*) デザイングループ